

III-P1-2 劇症1型および慢性特発性1型糖尿病の長期血糖コントロール状況について

国立三重中央病院内科, 市立四日市病院内科, 三重大学医学部第3内科, 三重大学医学部産科婦人科

田中 剛史¹, 三崎 盛治², 中山 幹浩³, 藤本 麗⁴, 矢野 裕¹, 住田 安弘¹, 足立 幸彦¹, 杉山 隆¹, 豊田 長康¹

【目的】劇症1型および慢性特発性1型糖尿病について、発症後の血糖コントロール状況を検討した。【成績】1) 劇症1型2例は、発症後4および6年を経ているが、標準体重1kgあたり、一日インスリン投与量が0.72~1.08, 0.51~0.54単位を要し、平均HbA_{1c}は7.70±0.53, 7.72±0.40であった。2) 慢性特発性1型4例は、全例ともインスリン投与(標準体重1kgあたり、一日投与量0.41~0.68単位)にてコントロールされ、平均HbA_{1c}は5.27~7.43%と保たれていたが、経過が長くなるに従い、次第に多くのインスリン投与が必要となる症例が存在した。【結論】劇症1型においては、早期にインスリン分泌能の廃絶をきたすため、コントロールは困難である。これに対し、慢性特発性1型では、コントロールは比較的容易であるものの、経過とともにインスリン分泌能の低下を示す症例では、より多くのインスリン投与を要していた。